

玉名市文化財調査報告 第53集

玉名市内遺跡調査報告書 15

— 令和3年度の調査 —

令和6年(2024)3月

玉名市教育委員会

序 文

玉名市は、熊本県の北西部に位置しており、小岱山や菊池川、有明海といった自然の恩恵を受け、古代から現代に至るまで長い歴史を持ち、多くの遺跡や文化財が所在しています。また、教育文化、観光都市としてもさらなる発展を遂げようとしています。

玉名市教育委員会では、公共及び民間の様々な開発事業との調整を図りながら、発掘調査等を円滑に遂行し、市内に所在する文化財の状況把握も常に取り組み、埋蔵文化財行政の改善・充実に努力しています。

本書は、令和3年度に実施した各種開発に伴う試掘確認調査の成果や市内の遺跡から出土している過去の未公表資料をまとめたものです。本書が市民の方々の埋蔵文化財に対する理解の一助となり、広く教育・文化の発展に寄与できれば幸いに存じます。

最後に、各調査を行うにあたってご協力いただいた市民、各事業関係者の皆様に対し厚くお礼申し上げます。

令和6年3月15日

玉名市教育委員会
教育長 福島 和義

例言

1. 本書は、玉名市教育委員会が令和3年度に国庫補助を受けて実施した、玉名市内遺跡の調査報告書である。
2. 調査は、玉名市教育委員会文化課中村安宏、宇田員将、藤父雅史が担当した。
3. 調査時のトレンチ及び遺構等の実測図、現地の写真撮影は各担当者が作成・撮影した。
4. 遺物の実測、写真撮影は、藤父が行った。
5. 遺物や遺構等のデジタルトレースは藤父が行い、一部宇田、石松直の協力を得た。
6. 挿図に使用している座標は、玉名市役所税務課所有の地籍図から転記した。座標値は世界測地系の第2座標系に基づいており、方位は特に記載がない限り座標北を示す。
7. 同じ遺跡内で別地点の調査を複数行っている場合には、アルファベットによる調査地点名を付している。
8. 調査地の地番については、原則として文化財保護法に基づく届出・通知の際の地番を表示している。いくつかの調査地点については、分筆等により、新たな地番が付されている場合がある。
9. トレンチの表記は本文中を除きTと省略している。
10. Ⅲ章（未報告資料紹介）は、市内遺跡詳細分布調査の一環として過去の調査データを整理し、紹介するものであり、主に玉名高校考古学部及び田添夏喜氏の原因を再トレースしたものである。
11. 整理作業は玉名市文化財整理室で行った。
12. 本書の執筆は、各担当者の報文をもとに藤父が行い、編集は藤父が行った。
13. 出土遺物は、玉名市文化財整理室で保管している。

本文目次

I 調査の概要

1 調査の体制	1	3 調査総括	1
2 調査の方法	1	4 活用	2

II 令和3年度の調査

1 岩崎原遺跡	6	9 山田神社門前遺跡群 (A地点)	26
2 山田松尾平遺跡 (A地点)	7	10 年の神遺跡 (A地点)	27
3 試掘調査 (三ツ川石切場跡)	9	11 山田神社門前遺跡群 (B地点・西林坊)	30
4 山田松尾平遺跡 (B地点)	13	12 寺田久保遺跡	32
5 堂ノ迫遺跡	15	13 高岡原遺跡	34
6 来光寺	16	14 年の神遺跡 (B地点)	38
7 唐人町遺跡	18	15 今見堂遺跡	41
8 玉名平野遺跡群	20		

III 未報告資料紹介

1 石貫ナギノ横穴群	44	3 保多地窓跡群 (1・2号窓跡)	48
2 幅木遺跡	46	4 池田地下式坑群	50

挿図目次

第1図 令和3年度調査地位位置図	3	第23図 唐人町遺跡調査地位位置図	18
第2図 岩崎原遺跡調査地位位置図	6	第24図 唐人町遺跡トレンチ配置図	18
第3図 岩崎原遺跡トレンチ配置図	6	第25図 唐人町遺跡トレンチ土層図	19
第4図 岩崎原遺跡トレンチ土層図	6	第26図 玉名平野遺跡群調査地位・周辺調査地点	20
第5図 山田松尾平遺跡 (A地点) 調査地位位置図	7	第27図 玉名平野遺跡群トレンチ配置図①	21
第6図 山田松尾平遺跡 (A地点) トレンチ配置図	7	第28図 玉名平野遺跡群トレンチ土層図①	22
第7図 山田松尾平遺跡 (A地点) トレンチ土層図	8	第29図 玉名平野遺跡群トレンチ配置図②	23
第8図 試掘調査地 (三ツ川石切場跡) 位置図	9	第30図 玉名平野遺跡群トレンチ土層図②	23
第9図 試掘調査地 (三ツ川石切場跡) トレンチ配置図	9	第31図 玉名平野遺跡群トレンチ土層図③	24
第10図 三ツ川石切場跡立面図・断面図	10	第32図 玉名平野遺跡群表採遺物実測図	24
第11図 三ツ川石切場跡トレンチ土層図	11	第33図 山田神社門前遺跡群 (A地点) 調査地位位置図	26
第12図 山田松尾平遺跡 (B地点) 調査地位位置図	13	第34図 山田神社門前遺跡群 (A地点) トレンチ配置図	26
第13図 山田松尾平遺跡 (B地点) トレンチ配置図	13	第35図 山田神社門前遺跡群 (A地点) トレンチ土層図	26
第14図 山田松尾平遺跡 (B地点) トレンチ土層図	14	第36図 年の神遺跡 (A地点) 調査地位位置図	27
第15図 2 トレンチ出土遺物実測図	14	第37図 年の神遺跡 (A地点) トレンチ配置図	27
第16図 堂ノ迫遺跡調査地位位置図	15	第38図 年の神遺跡 (A地点) トレンチ土層図	28
第17図 堂ノ迫遺跡トレンチ配置図	15	第39図 山田神社門前遺跡群 (B地点) 調査地位位置図	30
第18図 堂ノ迫遺跡トレンチ土層図	15	第40図 山田神社門前遺跡群 (B地点) トレンチ配置図	30
第19図 来光寺調査地位位置図	16	第41図 西林坊トレンチ平面・断面図	31
第20図 来光寺トレンチ配置図	16	第42図 西林坊出土遺物実測図	31
第21図 来光寺トレンチ実測図	16	第43図 西林坊トレンチ土層図	31
第22図 来光寺出土遺物実測図	17	第44図 寺田久保遺跡調査地位位置図	32

第45図	寺田久保遺跡トレンチ配置図	32	第59図	今見堂遺跡調査地位置図	41
第46図	寺田久保遺跡出土遺物実測図	32	第60図	今見堂遺跡トレンチ配置図	41
第47図	寺田久保遺跡トレンチ土層図	33	第61図	今見堂遺跡トレンチ土層図	42
第48図	高岡原遺跡調査地位置図	34	第62図	石貫ナギノ横穴群位置図	44
第49図	高岡原遺跡トレンチ配置図	34	第63図	石貫ナギノ横穴群出土鉄器実測図	45
第50図	高岡原遺跡トレンチ土層図①	35	第64図	石貫ナギノ横穴群配置図(部分)	45
第51図	1トレンチ溝状遺構平面・断面図	36	第65図	石貫ナギノ横穴群5号墓実測図	45
第52図	高岡原遺跡トレンチ土層図②	36	第66図	幅木遺跡の遺物出土地点位置図	46
第53図	高岡原遺跡出土遺物実測図	37	第67図	幅木遺跡出土遺物実測図	47
第54図	年の神遺跡(B地点)調査地位置図	38	第68図	保多地窯跡群位置図	48
第55図	年の神遺跡(B地点)トレンチ配置図	38	第69図	保多地窯跡群(1号窯・2号窯)実測図	49
第56図	年の神遺跡(B地点)トレンチ土層図	39	第70図	池田地下式坑群位置図	50
第57図	年の神遺跡周辺調査区位置図	40	第71図	池田地下式坑(2号)実測図	51
第58図	年の神遺跡(B地点)周辺出土遺物実測図	40	第72図	玉名市内における地下式坑分布図	52

写真目次

写真1	重機によるトレンチ掘削状況	2	写真17	唐人町遺跡調査状況・出土遺物	19
写真2	トレンチ調査状況	2	写真18	玉名平野遺跡群調査状況	25
写真3	玉名の遺跡を紹介するリーフレット	2	写真19	年の神遺跡A地点調査地(北から)	27
写真4	出前授業用「たまたま埋文キッ」の一例	2	写真20	年の神遺跡A地点調査状況	29
写真5	出前授業用「たまたま埋文キッ」の模型など	2	写真21	西林坊調査前状況(北から)と1トレンチ(西から)	30
写真6	岩崎原遺跡調査状況(北から)	6	写真22	寺田久保遺跡調査地(南西から)	32
写真7	山田松尾平遺跡A地点調査状況(東から)	7	写真23	寺田久保遺跡調査状況	33
写真8	山田松尾平遺跡A地点土層堆積状況	8	写真24	高岡原遺跡調査状況(南から)	34
写真9	開発計画区域の調査前状況(北から)	9	写真25	高岡原遺跡調査状況	37
写真10	試掘調査(三ツ川石切場跡)調査状況	12	写真26	年の神遺跡B地点1・2トレンチ(南から)	38
写真11	山田松尾平遺跡B地点1トレンチ(南から)	13	写真27	今見堂遺跡調査地(北から)	41
写真12	2トレンチ遺物出土状況(西から)	14	写真28	今見堂遺跡調査状況	42
写真13	2トレンチ出土遺物(赤生土器・土師器)	14	写真29	石貫ナギノ横穴群5号墓(左)と6号墓(右)	45
写真14	堂ノ追遺跡調査状況(北から)	15	写真30	幅木遺跡遠景と遺物出土地点付近(東から)	47
写真15	来光寺調査状況・出土遺物	17	写真31	保多地窯跡群採集の須恵器(市博物館蔵)	48
写真16	唐人町遺跡調査地(北から)	18			

表目次

第1表	令和3年度試掘確認調査一覧	4	第3表	令和3年度市内遺跡試掘・確認調査出土遺物観察表	53
第2表	石貫ナギノ横穴群番号対応表	45			

I 調査の概要

1 調査の体制

調査及び報告書の作成は、下記の体制により実施している。

令和3年度（確認調査・整理作業）

調査主体 玉名市教育委員会
 調査責任 教育長 福島和義
 調査総括 教育部長 藤森竜也
 文化課長 伊藤恵浩
 課長補佐兼文化財係長 田中康雄

庶務担当 主査 中村安宏

調査担当 主査 中村安宏

主査 宇田員将

主査 菅父雅史

発掘作業員 小塩勝美 野口龍宏

令和5年度（報告書作成）

調査主体 玉名市教育委員会

調査責任 教育長 福島和義

調査総括 教育部長 藤森竜也
 文化課長 瀬崎陽一郎
 文化財係長 末永 崇

庶務担当 主査 菅父雅史

報告書担当 主査 菅父雅史

2 調査の方法

試掘確認調査は、工事などにより埋蔵文化財に影響が及ぼされる地点において検出が予想される遺跡の性格や地形等を勘案し、その事業内容に応じてトレンチを適宜設定している。設定したトレンチは、0.13～0.28㎡のバックホーにより掘削し、包含層の一部や検出した遺構については、人力にて掘削を行っている。実測図は、縮尺1/20を基本とし、平面・断面図を作成した。トレンチ配置図等は、開発に伴う測量図及び字図等に記入した。写真は、一眼デジタルカメラで撮影し、データを保管してある。また、場合によって3次元計測も行っている。

3 調査総括

玉名市では、平成11年度から国・県の補助を受け、開発行為に伴い各種調査を実施している。

令和3年度における届出等の件数は、文化財保護法第93条における届出93件、94条による通知16件、調査依頼が3件であり、その内15件で試掘確認調査を実施した。確認調査件数の多くは、規模の大小に関わらず民間事業に起因するもので、公共事業に伴う確認調査は、新玉名駅周辺開発や市道拡幅に伴うものであった。

前年度に引き続き実施した新玉名駅周辺開発に伴う確認調査は、約154.87㎡の対象地に対して、合計84本のトレンチを設定したが、埋蔵文化財は確認されなかった。民間開発関係では、特に分譲地に伴う宅地造が多くなっている傾向があり、玉名市山田の高岡原遺跡、寺田の寺田久保遺跡、岱明町の年の神遺跡で確認調査を実施した。その結果、高岡原遺跡と寺田久保遺跡においては、いずれも溝状遺構が検出され、須恵器片が出土している。うち高岡原遺跡の須恵器は、古代（9世紀代）の甕とみられ、内面に車輪文の叩きがある特徴から荒尾産の可能性がある。当遺跡からは、これまでに古代とみられる環状の溝と須恵器が確認されていることから、この溝の性格を含めて今後も注意が必要である。山田の山田松尾平遺跡B地点においては、玉名バイパス建設に伴う県文化課の発掘調査区の南側に隣接していることから、一部において遺物包含層が確認され、古墳時代前期の甕、高坏などが出土した。これらは遺構の可能性も考えられる。近年、当遺跡の南側に所在する山田中嶋遺跡において南筑後系的大型甕棺墓群が確認されたことから、この一帯は今後注意が必要である。

また、玉名市三ツ川の山林では、埋蔵文化財包蔵地ではないものの産業団地計画に伴い、大規模な切土が生じることから現地踏査を行った。

その結果、凝灰岩崖面の一部において段状に加工された痕跡が認められ、石切場の可能性があったことから試掘調査を実施した。2か所のトレンチで遺物は検出できなかったものの、四角錐に近い形状

1 調査の概要

で周囲に矢穴が残る加工痕が認められたことから、近現代まで間知石を切り出すための石切場であった可能性が高いことなどがわかった。

この他、整理室では近年の調査成果をまとめるとともに、過去のデータ蓄積も常時行っているが、これまで未公表で報告する機会がなかった過去の資料も多々ある。よって今回報文のⅢ章において、市内遺跡の詳細分布調査と各遺跡の性格把握をより深めるという観点から、過去の調査資料を報告することにした。石貫ナギノ横穴群や幅木遺跡、保多地窯跡、池田地下式坑など出土地点が明確なものを取り上げている。

4 活用

玉名市では、開発行為に伴う試掘確認調査の結果を年度ごとに報告書として刊行しているが、その成果は市立博物館ころピアにおいて2年に1回の割合で発掘速報展を開催している。令和3年度は開催年ではなかったものの、各遺跡の発掘成果をまとめた概要版のリーフレットをシリーズで作成し、市のホームページでも公開して啓発を行っている。現在、塚原遺跡、大原遺跡、年の神遺跡、繁根木遺跡群など主要な遺跡紹介は13号まで作成している。

また、市内の小学校において「古代のたまな」という内容で出前授業を計画している。これは、小学校5・6年生を対象に、要望があれば「総合学習」や「玉名学」の時間に、市内から出土した土器や石器を教室に持っていき、実際に触れてもらいながら学ぶ体験型学習である。コロナ禍もあって、実際には令和5年度から実施している。



写真1 重機によるトレンチ掘削状況



写真2 トレンチ調査状況



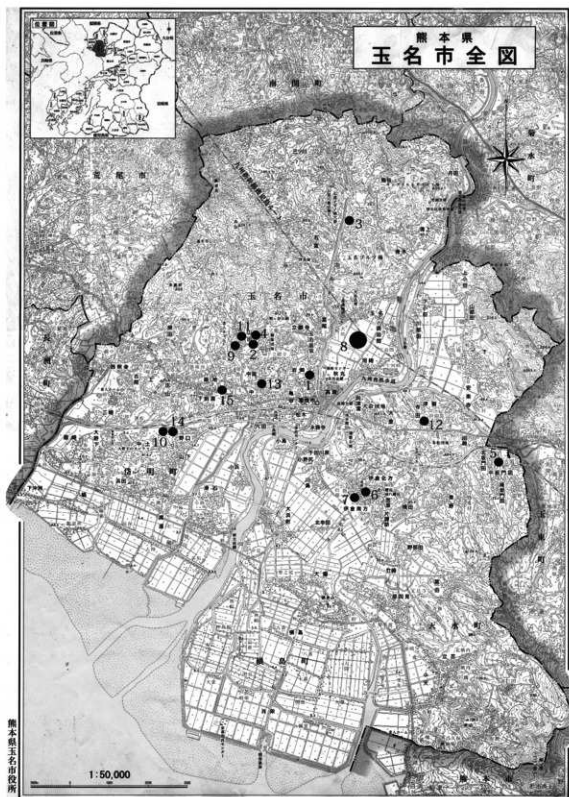
写真3 玉名の遺跡を紹介するリーフレット



写真4 出前授業用「たまな埋文キット」の一例



写真5 出前授業用「たまな埋文キット」の模型など



- | | | |
|------------------|--------------------|--------------------|
| 1. 岩崎原遺跡 | 6. 来光寺 | 11. 山田神社門前遺跡 (B地点) |
| 2. 山田松尾平遺跡 (A地点) | 7. 唐人町遺跡 | 12. 寺田久保遺跡 |
| 3. 三ツ川石切場跡 | 8. 玉名平野遺跡群 | 13. 高岡原遺跡 |
| 4. 山田松尾平遺跡 (B地点) | 9. 山田神社門前遺跡群 (A地点) | 14. 年の神遺跡 (B地点) |
| 5. 堂ノ迫遺跡 | 10. 年の神遺跡 (A地点) | 15. 今見堂遺跡 |

第1図 令和3年度調査地位位置図

I 調査の概要

第1表 令和3年度試掘確認調査一覧

	道跡名	調査地	敷地面積 (㎡)	種別	調査原因	調査期日	調査者	措置
1	岩崎原道跡	岩崎字西 857,858	127.50	確認調査	調査依頼	令和3年4月6日	中村安宏	慎重工事
2	山田松尾平道跡 (A地点)	山田字松尾原 1583-1	560.00	確認調査	調査依頼	令和3年6月30日	宇田良将	慎重工事
3	試掘調査 (三ツ川石切間跡)	三ツ川字下長面 82 外	249,465.08	試掘調査	工業団地	令和3年7月1日～7月6日	中村安宏	—
4	山田松尾平道跡 (B地点)	山田字平 1648 番1	631.70	確認調査	専用住宅	令和3年7月19～20日	宇田良将	工事立会
5	堂ノ道道跡	北坂門田字堂ノ道 221-2 ～161-4	3.650	確認調査	道路	令和3年8月24～30日	中村安宏	慎重工事
6	乘光寺	伊倉北方字屋敷 3138 番 1 外 3 筆	5,165.67	確認調査	納骨堂	令和3年10月5～8日	中村安宏	慎重工事
7	唐人町道跡	伊倉南方字西屋敷 1188-3～1163	164.00	確認調査	道路	令和3年10月26日,11 月4日	宇田良将	慎重工事
8	玉名平野道跡群 (第1次調査)	玉名 434-1 外 18 筆	—	確認調査	新駅周辺整 備事業	令和3年11月1日 ～11月9日	藤父雅史	—
	玉名平野道跡群 (第2次調査)	玉名 1620-1 外 6 筆				令和3年11月15日 11月24日		
	玉名平野道跡群 (第3次調査)	玉名 1460-1 外 7 筆				令和3年12月6日 ～12月13日		
	玉名平野道跡群 (第4次調査)	玉名 1143 外 5 筆				令和3年12月15日 ～11月22日		
9	山田神社門前道跡群 (A地点)	山田字下馬場 410 番 2,410 番 6, 410 番 7	281.49	確認調査	専用住宅	令和3年11月25～26日	中村安宏	慎重工事
10	年の神道跡 (A地点)	信明町野口字西平 2938 番 1	1840.00	確認調査	宅地造成	令和3年12月6～10日	中村安宏	慎重工事
11	山田神社門前道跡群 (B地点) 西林坊	山田字上馬場 164 番 2	38.00	確認調査	覆屋	令和4年1月26～28日	中村安宏	工事立会
12	寺田久保道跡	寺田字久保 384 番、 386 番 1	2,503.51	確認調査	宅地造成	令和4年2月15～17日	中村安宏	慎重工事
13	高岡原道跡	中尾字天神木 329-1	1,199.00	確認調査	宅地造成	令和4年3月2日 ～3月4日	中村安宏	慎重工事
14	年の神道跡 (A地点)	信明町野口 2460 番地 1	23,480.00	確認調査	調査依頼	令和4年3月8日	宇田良将	—
15	今兒堂道跡	築地 140 番 2	4,622.15	確認調査	店舗	令和4年3月15・16日	中村安宏	慎重工事

II 令和3年度の調査



西林坊の整備完了後

1 岩崎原遺跡

所在地：玉名市岩崎字西 857、858

調査原因：調査依頼

対象面積：127.50㎡

調査日：令和3年4月6日

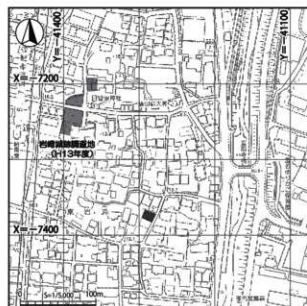
調査者：中村安宏

調査地は、繁根木川右岸の台地東端に位置する標高約15mの地点にあたる。北側は中世の岩崎城跡、南側は高瀬藩邸跡が分布している。

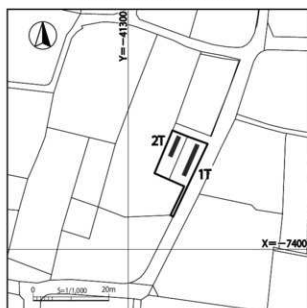
当遺跡は、弥生時代を中心とする遺跡と考えられ、平成13年度に実施された岩崎城跡の発掘調査区域内でも弥生時代後期の住居跡が9基検出されている。そのうち2基の住居跡は床面上から、多量の弥生土器が出土しており、器種も甕・壺・高坏・鉢・器台などが一括して検出されている。今回の調査区は、岩崎城跡調査地からは南東側へ約200m離れている。

当該地については、事前に調査依頼が提出されたため、切土が想定される駐車場予定地を中心に2か所のトレンチを設定して確認調査を実施した。

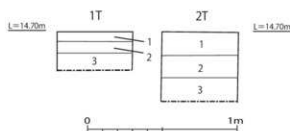
その結果、いずれのトレンチも現代の攪乱のみで、埋蔵文化財は確認されなかった。畑など耕作地にされる時点で造成を受けており、埋蔵文化財は残存していない可能性が高い。工事の内容は、専用住宅の新築であったが、調査の結果から、その後の処置は慎重工事となった。



第2図 岩崎原遺跡調査地位置図



第3図 岩崎原遺跡トレンチ配置図



岩崎原遺跡トレンチ土層

1. 灰褐色土 (7.5YR 4/2) しまり、粘性共になし、現代の耕作土。
2. 黒褐色土 (7.5YR 3/2) やし、しまり、粘性強い、1cm大の礫含む、礫地層。
3. 褐色土 (7.5YR 6/8) しまり、粘性共に強い、2cmまでの礫含む、基礎層。

第4図 岩崎原遺跡トレンチ土層図



写真6 岩崎原遺跡調査状況 (北から)

2 山田松尾平遺跡 (A地点)

所在地：玉名市山田字松尾原 1583-1

調査原因：調査依頼

対象面積：560㎡

調査日：令和3年6月30日

調査者：宇田員将

調査地は、境川左岸の標高約23mの地点に位置している。平成20～21年度にかけて、県文化課により実施された玉名バイパス建設に伴う発掘調査区域からは約200m北東側へ離れている。

県調査区においては、各時代の集落が確認されており、竪穴建物跡数を時代別にとると、縄文時代晩期1基、弥生時代中期5基、弥生時代後期78基、古墳時代前期20数基、古代13基であり、弥生時代後期における集落が最盛期であったことが窺える。また、その他の遺構や遺物をもとに弥生時代の水田遺構、屋外炉や石鎌、破鏡1点、古代の製鉄関連の埴壁や石帯（丸鞠）、緑釉陶器なども検出されている。特に古代（9世紀前半頃）においては出土遺物から玉名郡衙に関連する役人に管理された精錬所などの存在も指摘されている（龜田2014）。

当該地の工事内容は専用住宅の新築であるが、一部の基礎掘削が深いため、4か所にトレンチを設定して確認調査を実施した。

その結果、いずれのトレンチにおいても埋蔵文化財は確認されなかった。調査地は斜面上部を切土し、下部へ盛土するような造成が施されていたと考えられることから、北側に埋蔵文化財が残存している可能性は低いものと判断できる。

なお、南側には埋蔵文化財が残存している可能性があるものの、工事の掘削には影響がないため、その後の処置は慎重工事となった。

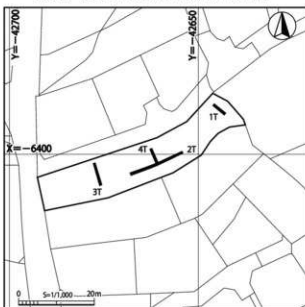
<参考文献>

亀田字編『山田松尾平遺跡』熊本県文化財調査報告書第304集

熊本県教育委員会 2014



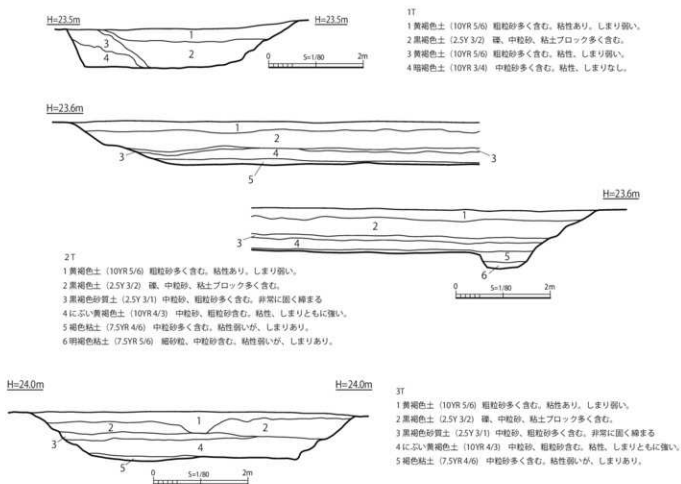
第5図 山田松尾平遺跡 (A地点) 調査位置図



第6図 山田松尾平遺跡 (A地点) トレンチ配置図



写真7 山田松尾平遺跡A地点調査状況 (東から)



第7図 山田松尾平遺跡 (A地点) トレンチ土層図



写真8 山田松尾平遺跡 A地点土層堆積状況 (左: 2T、右: 4T)

3 試掘調査（三ツ川石切場跡）

所在地：玉名市三ツ川字下長浦 82 外 144 筆

調査原因：調査依頼

対象面積：249,465.08㎡

調査日：令和 3 年 7 月 1 日～7 月 6 日

調査者：中村安宏

調査地は、繁根木川左岸の丘陵一帯に位置する標高約 32 m の地点である。対岸の丘陵崖面には石貫ナギノ横穴群（国指定史跡）が東面して所在する。

開発予定地は、埋蔵文化財包蔵地には含まれていなかったが、対象面積が広大で大幅な切土が計画されていたため、現地踏査を実施した。その結果、一部の凝灰岩崖面において時期不明の石切場の可能性がある箇所を確認した。

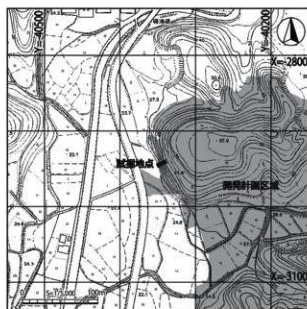
石切場跡がある地点は、西側が県道玉名八女線に面する丘陵の先端で、ほぼ垂直に立ち上がる崖面の下部において、明らかに階段状に切られた痕跡が認められた。よって、その下部付近の 2 地点においてトレンチを設定し、試掘調査を実施した。なお、現段階で遺跡名称がないため、三ツ川石切場跡と仮称しておく。

試掘の結果、いずれのトレンチにおいても遺物は検出できなかったが、凝灰岩の剥片が多量に検出され、中には加工した痕跡があるものも含まれていた。遺物がないため時期の特定が困難であるが、崖面に四角錐に近い輪郭が残り、まわりに矢穴痕が認められたことから近代墳まで、石垣に使用される間知石用の石切場であった可能性が考えられる。

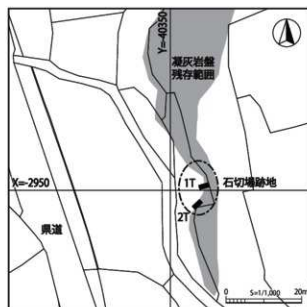
結果的に今回の開発計画においては、この石切場跡がある凝灰岩崖面までは掘削されず、その他の範囲においても埋蔵文化財は確認できなかったことから慎重工事となった。

なお、近年まで石切場として利用されていたならば地元住民などは周知していたであろうことから、今後は聞き取りなども行い、いつ頃まで、どのように利用されていたのかなどの疑問を解消していきたい。

玉名市内には、舟形石棺が多く分布しており、高木慕二氏はそれらの製作地として青木や月田付近を



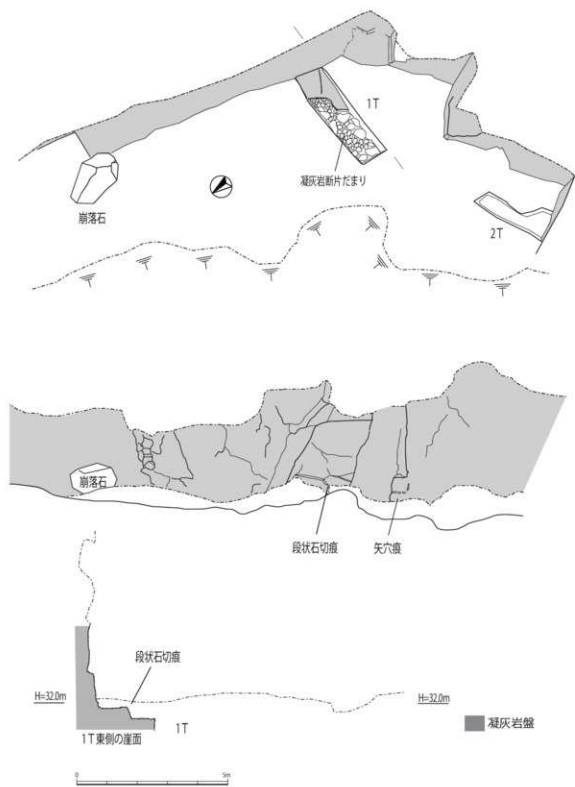
第 8 図 試掘調査地（三ツ川石切場跡）位置図



第 9 図 試掘調査地（三ツ川石切場跡）トレンチ配置図



写真 9 開発計画区域の調査前状況（北から）



第10図 三ツ川石切場跡立面図・断面図

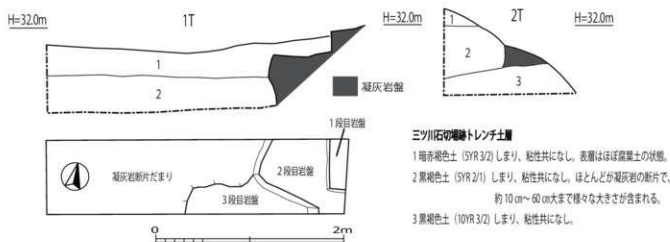
想定している（高本 2012）。県指定史跡である青木摩崖梵字群の崖面も凝灰岩盤が切り取られたように立ち上がっており、中世以前まで石切場であった可能性も考えられる。また、月田地区には宮の後古墳、前田古墳などの舟形石棺を主体とする古墳が最も多く集中しているが、これら石棺の石切場やその製作地がピンポイントで明確になっているわけではない。石切場跡の調査例は少ないが、市内では田崎の北の崎遺跡における県文化課の発掘調査において、昭和初期まで間知石が切り出されていた石切場であったことが判明している（池田 2006）。また、月田地区においても 40 年前程まで石を切り出していたという場所が確認されている（末本 2015）。

県内では宇土市に所在する馬門石の石切場跡がよく知られている。馬門石の岩盤と岩盤の間にある谷部（平場）の発掘調査によって、掘立柱建物跡（作業小屋）とみられる遺構が検出され、柱穴から 5 世紀中頃から 6 世紀代の土師器の甕などが出土したことで、採石が古墳時代まで遡ることが判明している。全国的に古墳時代頃における石材採取の方法は、転石（自然石）の利用か、母岩となる石材の周囲を掘り下げていく「掘削技法」がある。「矢穴技法」は鎌倉時代後期にはあったとされるが、県内では、いつまで遡るか明確ではないものの、宇土城跡石垣などの矢穴事例から近世初頭に導入されているのは確実であるという。大分県日田市の法恩寺石切場跡の調査では、矢穴痕の寸法が幅 6～7cm、高さが 3.5～5cm、奥行 5～7cm で分類によって 18 世紀

に始まり、近世後半～近現代にかけて主流となった矢穴であることが判明している。三ツ川石切場跡の矢穴もその寸法とはほぼ同規模である。しかし、馬門石切場跡にも同様に矢穴技法の痕跡が認められているが、あくまで採掘が終了した最終段階の痕跡であって、矢穴技法以前の採石痕は後世に削られて失われたか、いまだに残る多量の剥片の下に埋没している可能性が指摘されている（高本 2006）。今回の調査についても、トレンチ下層は多量の凝灰岩断片で埋め尽くされており、基盤層まで掘削して確認しているわけではない。よって、どのくらいの深さまで採石が行われ、本来の岩盤がどこまで広がっていたのかなど未解決の課題が残されている。今回は試掘であり、石切場跡部分については、工事の影響はなく保存される計画なので、今後も周辺の状況も含めて検証を行っていきたい。

<参考文献>

- 高本 隼二「菊池川流域の古墳」『国立歴史民俗博物館研究報告』第 173 集 2012
池田 理生編「阿蘇の灰石展」平成 18 年度企画展解説図録 熊本県立装飾古墳館 2006
末永 崇「月田の石切場」『歴史玉名』第 72 号 玉名歴史研究会 2015
藤本 貴仁「馬門石切場跡」『霧島興』馬門石切場跡跡 宇土市埋蔵文化財調査報告書第 28 集 宇土市教育委員会 2006
大分県立埋蔵文化財センター編「法恩寺石切場跡」大分県立埋蔵文化財センター調査報告書第 26 集 2023



第 11 図 三ツ川石切場跡トレンチ土層図

写真10 試験調査（ミツ川石切場跡）調査状況



石切場跡調査前状況（西から）



石切場跡調査状況（西から）



石切場跡1トレンチ調査状況（西から）



段状に残る石切痕跡（西から）



間知石状に残された部分と矢穴痕（西から）



石切場跡採集の凝灰岩断片

4 山田松尾平遺跡 (B地点)

所在地：玉名市山田字平 1648 番 1

調査原因：専用住宅

対象面積：631.70㎡

調査日：令和3年7月19日

調査者：宇田員将

調査地は、境川左岸の標高約 17 m の地点に位置している。平成 20～21 年度にかけて、県文化課により実施された玉名バイパス建設に伴う発掘調査の調査地南側隣接地にあたる。県調査区では 7 頁で前述したとおりの集落跡が確認されている。

当該地の工事内容は専用住宅であるが、カーポート基礎部分の掘削が深いため、確認調査を実施した。

その結果、現在の地表面から約 20cm 下までが耕作土であり、耕作土下で包含層を 4 層確認したが、現地表面から約 90cm 下においても遺構面は確認できなかった。しかし、2 層から 5 層までは遺物包含層であり、古墳時代前期の土師器が含まれる。特に 3 層下位は遺構の埋土である可能性があり、図示したように裏や高坏が出土している。

今後の処置は、敷地全体に約 10cm の盛土が施されることから、建物の基礎部分における掘削深度は盛土及び耕作土内に収まり、カーポート基礎部分の調査はすでに完了していることなどから慎重工事となった。

出土した遺物【第 15 図】について、1 は弥生時代中期の裏口縁部である。同時期の住居跡 5 基が北側の県調査区で検出され、黒髪式期の土器も出土している。2・3 は、古墳時代前期の土師器である。2 は高坏脚部で裾部に穿孔が認められる。3 は裏の胴部で、破片数点が接合できたものである。県調査区では同時期の住居跡も 20 数基検出されており、このように胴部が球形に近く、最大径が胴部中位にある裏も出土している。よって、これらの遺物は北側集落からの流れ込みか、遺構の広がりより南側にもあったものと考えられる。



第 12 図 山田松尾平遺跡 (B地点) 調査地位置図

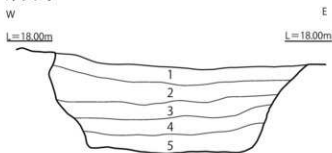


第 13 図 山田松尾平遺跡 (B地点) トレンチ配置図

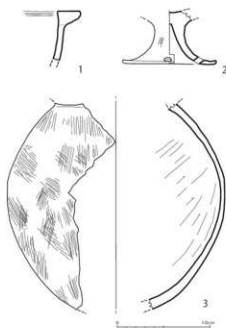
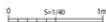
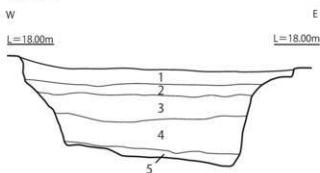


写真 11 山田松尾平遺跡 B 地点 1 トレンチ (南から)

1トレンチ



2トレンチ



第15図 2トレンチ出土遺物実測図

1トレンチ・2トレンチ共通土層注記

1. 褐色土(7.5YR 4/3) 耕作土。
2. 褐色粘質土(7.5YR 4/4) 粘性弱く、しまりあり、粗粒砂少量含む。
3. 黄褐色粘質土(7.5YR 3/2) 粘性弱く、しまりあり、粗粒砂少量含む。
4. 暗褐色粘質土(7.5YR 3/3) 粘性・しまりともに弱い、粗粒砂多く含む。
5. 褐色シルト(7.5YR 4/4) しまり弱く、粗粒砂少量含む。

※2層から5層までは包含層、遺構の埋土の可能性もあがる(特に3層以降)。

第14図 山田松尾平遺跡(B地点)トレンチ土層図



写真12 2トレンチ遺物出土状況(西から)



写真13 2トレンチ出土遺物(弥生土器・土師器)

5 堂ノ迫道跡

所在地：玉名市北坂門田字堂ノ迫 221-2～161-4

調査原因：新設道路

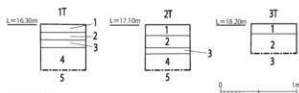
対象面積：3.650㎡

調査日：令和3年8月24日～30日

調査者：中村安宏

調査地は、菊池川左岸の伊倉丘陵性台地東側に位置する標高約16～19mの地点である。旧地形は西から東へ傾斜しており、約40年前に棚田状に水田化され、その後は畑地となり一部は果樹園として利用されていたようである。工事計画の内容が、新設市道で大規模な切土が生じることから、掘削が可能な地点に3か所のトレンチを設定して確認調査を実施した。なお、高低差が著しく、重機の搬入が困難であったため、人力により掘削を行った。

確認調査の結果、埋蔵文化財は確認されなかった。以前の耕作地化に伴う造成によって削平を受け、残存していないものと考えられる。工事の内容は、施工延長259.8mの市道新設工事であるが、調査の結果、慎重工事となった。



1 トレンチ土層

- 1 黒褐色土 (10YR 3/2) しまり、粘性共になし。表土層。
- 2 暗褐色土 (10YR 3/3) しまり、粘性共になし。砂粒含む。耕作土層。
- 3 に近い黄褐色土 (10YR 4/3) しまり強く、やや粘性あり。1cmまでの砂粒含む。旧耕作土層。
- 4 灰黄褐色土 (10YR 4/2) しまり強く、やや粘性あり。1cmまでの砂粒含む。旧耕作土層。
- 5 褐色土 (7.5YR 4/3) しまり強く、やや粘性あり。4層より少し明るい土色。基盤層。

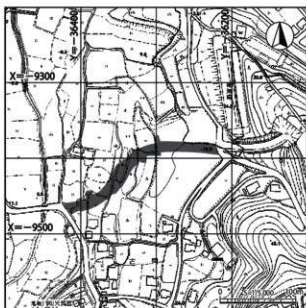
2 トレンチ土層

- 1 黒褐色土 (10YR 3/2) しまり、粘性共になし。表土層。
- 2 に近い黄褐色土 (10YR 4/3) しまり強く、粘性なし。2cmまでの砂粒を含む。
- 3 に近い黄褐色土 (10YR 4/3) ややしまり強く、粘性弱い。砂粒含む。旧耕作土層。
- 4 灰黄褐色土 (10YR 4/2) ややしまり強く、粘性あり。1cmまでの砂粒含む。旧耕作土層。
- 5 褐色土 (7.5YR 4/4) しまり、粘性共に強い。基盤層。

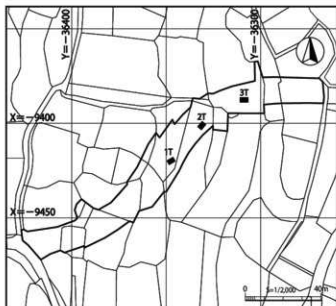
3 トレンチ土層

- 1 黒褐色土 (10YR 3/2) しまり、粘性共になし。表土層。
- 2 に近い黄褐色土 (10YR 5/4) しまり、粘性共に強い。3の基盤層が風化した層。
- 3 に近い黄褐色土 (10YR 6/4) しまり、粘性共に強い。基盤層。

第18図 堂ノ迫道跡トレンチ土層図



第16図 堂ノ迫道跡調査地位置図



第17図 堂ノ迫道跡トレンチ配置図



写真14 堂ノ迫道跡調査状況（北から）

6 来光寺

所在地：伊倉北方字西屋敷3138番1外3筆

調査原因：納骨堂新築工事

対象面積：5165.67㎡

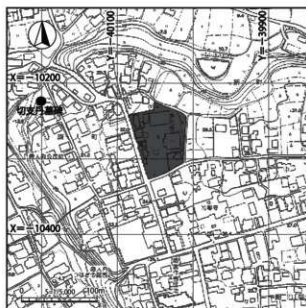
調査日：令和3年10月5日～8日

調査者：中村安宏

調査地は、菊池川左岸の伊倉丘陵性台地西側に位置する標高約24mの地点で、北西側には切支丹墓碑（市史跡）が所在している。来光寺は天文10年に開基されたといわれ、現在の本堂はその後再建されたものである。

工事は、境内に納骨堂が新築されるもので、フーチング入る部分を中心に5か所のトレンチを設定して調査した。その結果、1トレンチにおいて近代以降の小溝を1条検出したのみで、他に遺構は確認されなかった。全トレンチにおいて近現代の瓦片、壁材の漆喰片及び針金等が下位まで混在している状況であることから、調査地全体が近代以降に造成を受け、埋蔵文化財が残存している可能性は低いものと考えられる。各トレンチの埋土からは近世以降の瓦や波佐見産の皿などが出土している。第22図-4は白土象嵌の九曜文碗で、江戸時代後期（19世紀）の松尾焼である。熊本城跡などで出土例がある。

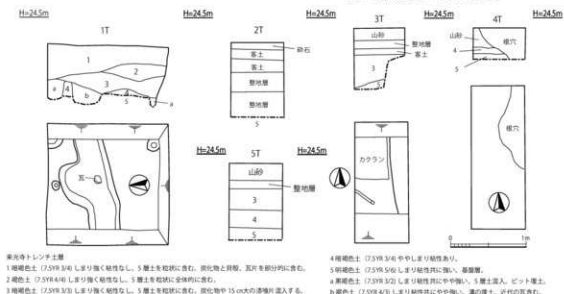
その後の処置は、近代以降の溝のみで完掘を行っていることから慎重工事となった。



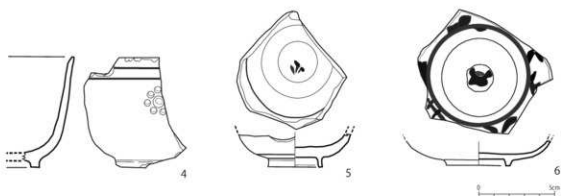
第19図 来光寺調査地位置図



第20図 来光寺トレンチ配置図



第21図 来光寺トレンチ実測図



第22図 来光寺出土遺物実測図

写真15 来光寺調査状況・出土遺物



調査地全景 (西から)



3トレンチ調査状況 (北西から)



1トレンチの溝検出状況 (西から)



来光寺出土遺物 (瓦片・陶磁器類)

7 唐人町遺跡

所在地：伊倉南方字西屋敷 1188-3～1163

調査原因：道路（市道）

対象面積：164㎡

調査日：令和3年10月26日、11月4日

調査者：宇田員将

調査地は、菊池川左岸の伊倉丘陵性台地東側崖下に位置する。標高約4.7mの地点で、現況は宅地と果樹園となっていた。

工事の内容が市道改良工事で、切土が生じることから4か所のトレンチを設定して人力掘削による確認調査を実施した。

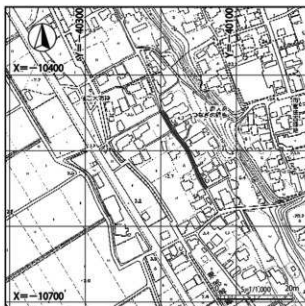
その結果、1・2トレンチは約1m下まで造成土であった。1トレンチは3層まで山砂、4～7層は粘質の客土であり、2トレンチも1～4層まではゴミ等が混入した客土であった。3トレンチは約30cm下で荒砂が検出され、激しい湧水があった。下層は荒い砂層で小規模な自然流路の可能性がある。

4トレンチは、10cm下で基盤層がみられたが、埋蔵文化財は確認されなかった。周辺地権者によれば、この一帯は以前、レンコン畑で近年になって果樹園や宅地に造成されたということであった。

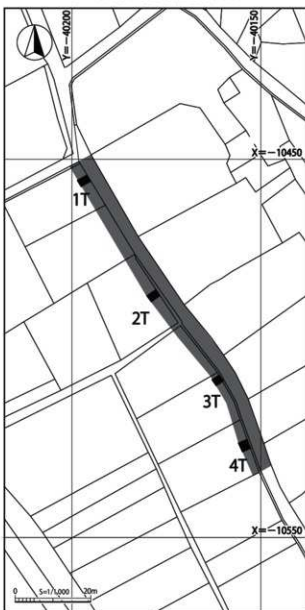
工事の内容は、施工延長89.8mの市道改良工事であるが、埋蔵文化財は確認されなかったことから、その後の処置は慎重工事となった。



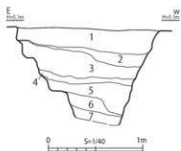
写真 16 唐人町遺跡調査地現況（北から）



第 23 図 唐人町遺跡調査地位置図

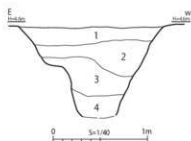


第 24 図 唐人町遺跡トレンチ配置図



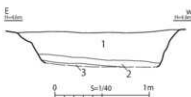
1T土層断面

- 1 浅黄褐色(10YR 8/4)砂 粗粒砂主体、山砂
- 2 にぶい黄褐色(10YR 5/4)砂 粗粒砂主体、山砂
- 3 にぶい黄褐色(10YR 7/4)砂 粗粒砂主体、山砂
- 4 黄褐色(10YR 3/4)粘質土 しまり、粘性ともに弱い中粒砂少量含む。
- 5 黄灰色(2.5Y 4/1)粘質土 しまり弱い、粘性強い、中粒砂微量含む。
- 6 灰黄褐色(10YR 4/1)粘質土 しまりなし、粘性弱い、粗粒砂微量含む。
- 7 黄灰色(2.5Y 4/1)粘質土 しまりなし、粘性強い、粗粒砂微量含む。



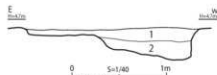
2T土層断面

- 1 褐色(7.5YR 6/6) よくしまる、粘性なし、礫を少量含む。
- 2 黄褐色(7.5YR 3/1)土 しまりなし、粘性強い、瓦片、土器片、礫を含む。
- 3 暗褐色(7.5YR 7/2)土 しまりなし、粘性強い、褐色土、瓦片含む。
- 4 暗灰色(10Y 3/1)粘質土 しまりなし、粘性あり、木質、礫を含む、ビニール袋などのごみ含む。



3T土層断面

- 1 暗褐色(10YR 3/4)土 よくしまる、粘性強い、瓦、土器片多く含む。
- 2 暗褐色(10YR 3/4)砂質土 粗粒砂主体、褐色土、褐色土粘含む。
- 3 にぶい黄褐色(10YR 6/3)砂 粗粒砂主体、かなりの湧水が流れ。



4T土層断面

- 1 黄褐色(10YR 3/2)土 表土 しまりなし、粘性なし
- 2 黄褐色(10YR 5/6)土 しまり、粘性ともに弱い、地山の細粒、黄化物粒少量含む。

写真 17 唐人町遺跡調査状況・出土遺物



1 トレンチ土層堆積状況 (北から)



2 トレンチ土層堆積状況 (南から)



唐人町遺跡出土遺物 (近世以降の漆喰・瓦片など)

第 25 図 唐人町遺跡トレンチ土層図

8 玉名平野遺跡群

所在地：玉名 434-1 外 18 筆 (第 1 次)

玉名 1620-1 外 6 筆 (第 2 次)

玉名 1460-1 外 7 筆 (第 3 次)

玉名 1143 外 5 筆 (第 4 次)

調査原因：新玉名駅周辺整備事業に伴う開発

対象面積：154,887㎡

調査日：令和3年11月1日～11月9日(第1次)

令和3年11月15日～11月24日(第2次)

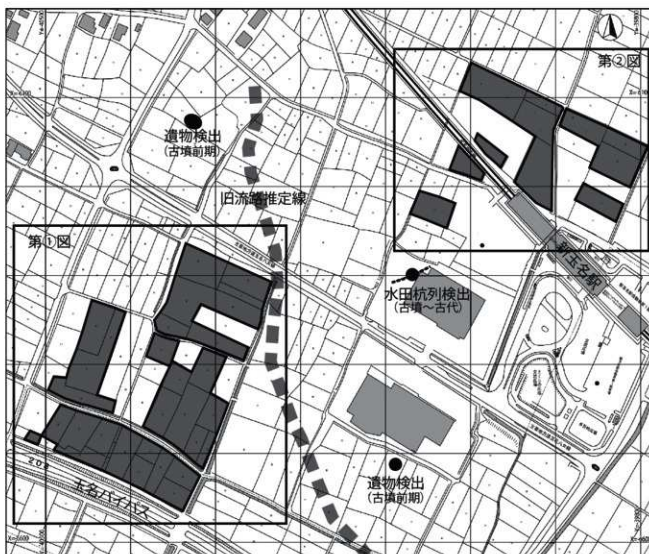
令和3年12月6日～12月13日(第3次)

令和3年12月15日～12月22日(第4次)

調査者：崔父雅史

調査地は、菊池川右岸の玉名平野一帯に位置しており、標高約4～5mの地点にあたる。新玉名駅周辺整備開発計画に伴い、令和元年度から継続して確認調査を実施しており、これまで駅舎南側の柳町遺跡を含む3地点において古墳時代前期の遺構・遺物、また駅舎北側の一部においては数か所で水田跡(畦畔及び水路)が確認されている。

当該年度に実施した確認調査地点は、埋め戻し後の耕作も考慮し、2月までに麦などの裏作がない筆などに絞られたため、飛び地的に点々移動して実施した。調査対象地に合計84か所のトレンチを設定して確認調査を実施したが、埋蔵文化財は確認されなかった。



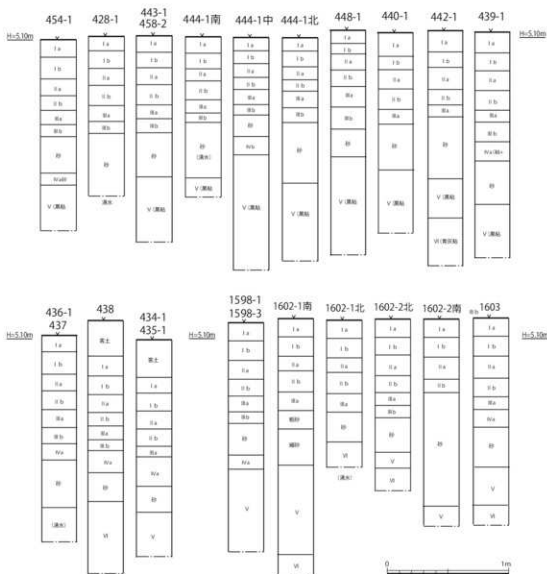
第 26 図 玉名平野遺跡群調査地位置・周辺調査地点



第 27 図 玉名平野遺跡群トレンチ配置図①

なお、左図の破線はこれまでの確認調査で湧水が多く認められた地点を結び、旧流路と推定している範囲である。今回の調査区でも同様に地下水が多く湧き出した地点も数か所あった。事業計画範囲全体の中で特に北西端や南西端に湧水地点が多く、砂層が堆積し、すぐに水が流出して掘削が困難だったり、掘ってもすぐに崩壊し、具体的な層位が確認できなかったトレンチもある。今回の調査区内では遺構は確認できなかったものの、これまでの調査例を踏ま

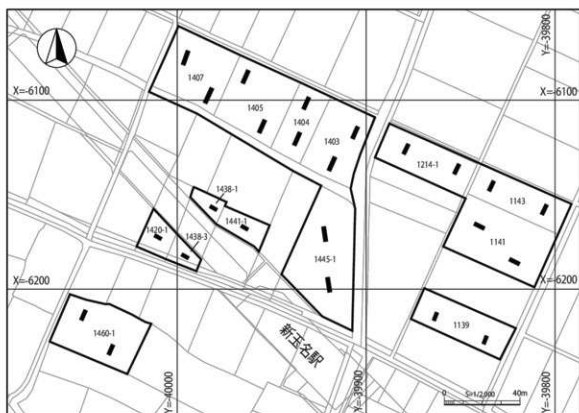
えると、少なくとも古墳時代前中期は柳町遺跡や両迫間日渡遺跡のように流路に挟まれた微高地上に小集落や祭祀的な遺構が残存しているものと考えられる。左図に示しているように、数か所で古墳時代前期とみられる遺物集中地点、古墳時代から古代とみられる水田跡（杭列）が検出されている。流路も、そのような微高地の合間を抜けて、網目状に流れていた可能性がある。



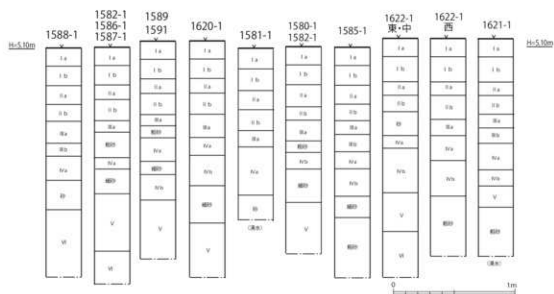
玉名平野遺跡群トレンチ土層

- I a 現代の耕作土
- I b 旧耕作土（水田床土の場合が多い）
- II a 黄褐色砂質土（2.5Y 5/4）全体的に粗い砂粒を多く含む。近世以降の耕作土か。
- II b 黄褐色砂質土（2.5Y 5/4）しまりなし、粗い砂粒をやや多く含む。近世以降の耕作土か。
- III a オリーブ褐色粘性土（2.5Y 4/4）ややしまり、粘性あり。細砂粒少量、マンガンを含む。
- III b オリーブ褐色粘性土（2.5Y 4/6）しまり、粘性やや強い。マンガンをやや多く含む。
- III b オリーブ褐色粘性土（2.5Y 4/6）しまり、粘性やや強い。マンガンをやや多く含む。
- IV a 黄灰色粘性土（2.5Y 4/1）しまり弱く、粘性強い。全体的に細砂粒を含む。
- IV b 黄灰色粘性土（2.5Y 5/1）しまり、粘性弱い。細砂粒はIV a よりも少ない。
- V 黒色粘性土（10YR 5/4）しまり、粘性やや強い。全体で最も黒色が強い。
- VI 青灰色粘性土（10GY 4/1）しまり弱く、粘性やや強い。水分を多く含む。
- 砂 浅黄色砂層（2.5Y 7/3）しまりなし。全体が2～5mmの砂層。河川氾濫による堆積物とみられる。

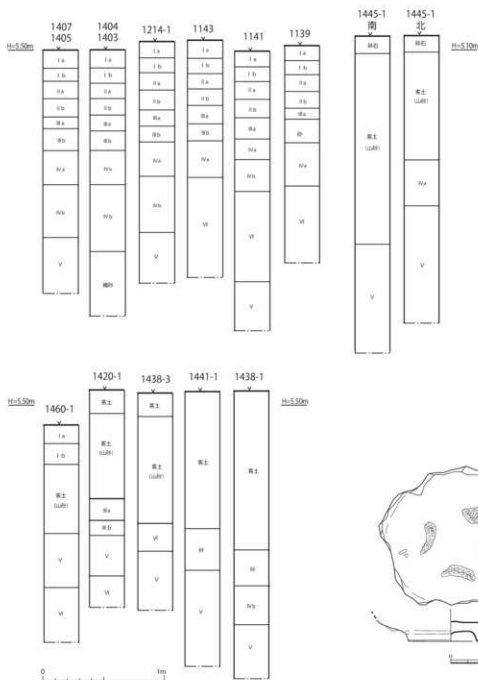
第28図 玉名平野遺跡群トレンチ土層図①



第 29 図 玉名平野遺跡群トレンチ配置図②



第 30 図 玉名平野遺跡群トレンチ土層図②



第31図 玉名平野遺跡群トレンチ土層図①

第32図 玉名平野遺跡群表採遺物実測図

今回の調査範囲では、ほとんど遺物は確認されず、近世以降の陶磁片や砂層に流れ込んだ土師器小片などであり、図化できるものはなかった。第32図は、当調査地からの出土ではなく、約400m南東側に離れている令和3年度の県調査区（同一遺跡）周辺で表採した遺物である。採集地点は現在の水田に

伴う水路となっていた。高麗青磁とみられる遺物で、高台以外は全体に施軸されているが、見込みに砂目痕が4箇所あり、窯の中で釉薬が膨れ上がった部分もある。熊本博物館所蔵資料に類例があり、時期は14～15世紀頃とみられる。

写真 18 玉名平野遺跡群調査状況



442-1 番地トレンチ調査状況 (南東から)



1620-1 番地トレンチ調査状況 (北東から)



1139 番地トレンチ調査状況 (東から)



1407 番地トレンチ調査状況 (東から)



1582-1 番地トレンチ調査状況 (西から)



435-1 番地トレンチ調査状況 (北西から)